**日本機械学会北海道支部シニア会**

**2021 年度第 1 回オンライン会議・交流会報告**

開催日時：2021 年 5 月 18 日（火） 15:00～17:00

開催形態：オンライン会議（Zoom を使用、ホスト操作　杉山先生）

参加者（敬称略）　16名

　　杉山、近久、小林、石坂、台丸谷、疋田、古川、三浦、野口、常本、城戸

小野、後藤、岸浪、宮崎（支部）、長尾

会議経過：

司会進行および経過説明：杉山会長

※ZOOM操作調整のため、開始時間は１５：３０より

１ 参加者全員による自己紹介

　 自己紹介は後段の意見交換と併せて行った。

２ 報告

報告１．オンライン会議・交流会を開催するに至った経緯等について

報告２．その他　　　特に報告はなし

3 議題

議題１．本年度（2021 年度）のシニア会活動の取り組みについて

　　　　　･取組み目的の確認：

会員相互の親睦交流や情報交換を行うこと。

会員各自の経験を活かし支部の発展に寄与すること。

公開講座や見学会、支部行事などの活動の支援。

コロナのため集まることはできないが、オンライン会議を活用して進めたい。

　　　　･支部シニア会の運営方法については、特に意見はなく、当面は現行の運営方法で行うこととした。



議題２．シニア会への入会勧誘活動について

1. 全体的な取り組み

・シニア会のHPに２０１８版勧誘案内を掲載している。更新の必要あり。

　･石坂様作成のシニア会パンフレット（２０２０年作成の「北海道支部シニア会の活動」）がたいへん役に立つと思われる。

この資料説明はコンパクトにまとまっている。ただ、昨年２０２０年度は新型コロナの影響でシニア会の活動は制限され、２０２０年度の活動は追記できていない。このパンフレットは、シニア会の趣旨（目的）、公開講座・技術セミナー、企業見学会・交流会、その他の活動の実績等に関する説明となっている。最後に入会相談窓口が設定されている。

杉山会長と相談し、内容を最新版に修正しシニア会HPに載せることとした（石坂氏了承）。

原稿をいただければ掲載することとした（事務局宮崎さん了承）。

1. 道央地区、道南地区、道東地区での取り組み

・道央地区：特段の活動は行っていない。オンライン会議を活用していくことで対応できる。（近久副会長）

・道南地区：２０２０年度道南地区ではオンライン会議を７回開催。企業、大学、高専等へ、入会の勧誘を検討しているが、大きな進展はまだない。（杉山会長）

・道東地区：今年に延期した技術セミナーを１１月ごろ実施したいが、コロナの状況を見ながら判断したい。（小林副会長）

議題３．その他 特になし

４　交流会

1. 話題提供

１）その１　機械工業会＆シニア会　ものづくり基礎セミナー紹介（長尾）

　　　　　　道央地区が行う標題セミナーも今年度で6回。今回は、次の要領で行う。

テーマ：「危機かチャンス化？　炭酸ガスゼロ社会に向けた産業構造変化と

経済活性」

講師　：北海道職業能力介達大学校校長の近久先生

日時 ： 6月24日（木）15時から、

会場 ： 北農健保会館 札幌市中央区北4条西7丁目

その他：　開催形態はハイブリッド型セミナーとする。

５月２４日の週に機械工業会会員企業はじめものづくり企業全般

にリーフレットを配布し、セミナーへの参加を募る。（長尾）

 　２）その２　 「コロナ禍における道南地区でのシニア会活動について」（杉山会長）

道南地区の取りまとめ役、杉山先生からパワーポイントによる紹介。

2014年度から2020年度までの7年間、主に道南（室蘭）地区で、一般社会人、大学生・高校生等を対象に、公開講座を年に1～２回実施した。また、企業見学会・交流会を年に1～2回実施し、企業関係者および企業に就職した卒業生等との交流を行った。道南地区で実施しているオンライン会議・交流会を、今後、全道（道央地区、道東地区）に広めていくことを検討する予定である。

（パワーポイント資料参照）

５　自由討論

杉山先生の進行により様々な意見交換が行われた。

【参加者からひと言】

①（古川）：北大精密１０期、旭川高専、北大、情報大学、企業に勤めており、大学ではロボメック、生産システムへのAI導入などを専門。旭川在住。フェンシングのコーチもやっている。

②（三浦）：WEBで行う交流会であれば参加したい。原発汚染についての疑問などがあり、汚染水の放出などについて広い分野の専門家からの幅広い意見を聞きたい。

③（近久）：事故原発では溶融漏出核燃料に地下水が直接接触しており、相当量の

汚染水発生構造となっている。

④（城戸）：活動内容がよく分かった。コロナのため学生との接触ができないが、 シニアの力を学生に役立てたい。学生の発表時にコメント、アドバイスができるよう交流をもっと進めたい。

⑤（小野）：幅広さの必要もあるが、機械屋として興味のある異分野があれば、議論し専門の方にお願いするようにしたらどうか。エネルギーに興味があるので水素などのテーマを希望したい。

⑥（常本）：北見は会員が少ないので、会議の負荷が重い。分野の拡大は重要であるが機械学会本体の活動との関係もあり、バランスに考慮する必要があると思う。

⑦（小林）：皆さん専門分野があるので、自分の専門をベースにした話題提供をすると良いのでは、また、外部から講師を呼ぶこともあってよい。シニア会以外の人たちにも宣伝する必要がある。

⑧（長尾）：若い人たちが機械に対する魅力をあまり感じていないように感ずる。そこで、機械工業会では機械そのものが面白いと感じるセミナー作りに努力している。工業会会員だけではなくものづくり企業全般に役立ててもらいたい。

⑨（台丸谷）全道的にオンラインサイトでこのメンバーで講演しあうことができる。

皆さんで聞くのは大事である。

⑩（石坂）：会員の7割が大学、残りが企業、公務員。固定化している。新しい人を取り組むことが大事。公開講座は広い分野、全道的な範囲をめざし、聴衆の範囲も全道的に幅広く考えるべき。高校生や一般の方々を含め、広い聴衆へのアナウンスや新しいテーマを広める努力が必要。シニアのスキルを幅広く展開することの、努力が必要。

⑪（疋田）：道南地区でも人が少ない。地区ごとより広い範囲での展開も必要。地区内の活動は広く続ける。

⑫（後藤）：今回のようにいろいろな方々と議論することは重要。ＺＯＯＭによるオンライン会議はそのような話題のきっかけになる。もっと広い方にも広げていくべき。

⑬（岸浪）：講演を行う上で、ZOOMはかなり使える。まだまだこの１６名のメンバーで面白い話ができるものと思う。

【自由討議】

・Q：今回の交流会の取組をシニア会以外の外部にも声がけしたのか？

A:（杉山）：シニア会以外では支部にも声がけをしたが、参加はなかった。面白い話題があればよかったと思う。

・（野口）　城戸先生が話していたように、シニア会の本来の目的は何か？　我々が学ぶのか、学べる題材を世に提供するのか。学んだことをどのように役立てるのか？一度整理する必要がある。

どのように役立てられるのかが本来の課題と思われる。ZOOMで本来の目的を進めることができるのではないかと思う。

・（杉山）シニア会の目的は、①会員相互の親睦、交流、②社会貢献、であるが、現状はコロナで活動が手薄になっている。

・（野口）情報交換のみではもったいない。これを社会へどのように導出していくかが大事。

・（小林）地道に会員に呼びかけたが、よく伝わらなかった。あらかじめテーマ、講師を決め広報したら,　もっと集まったかもしれない。

・広く広報するためには、北海道支部のHPを使うことも効果があるかもしれない。

・話題提供の完璧さを狙うのではなく、問題点をぶつける場だけでも十分意義はある。問題提供することが必要と思う。

・話題提供の時間を明確にし、一般を含め全体に知らせることが大事。全道展開の方法は模索する。

【本交流会のまとめ】

・（杉山）今後の方針として、各地区で実施する取り組みを全道に広めていく。第２回は講演の時間を明確に提示し、周知することで一般の皆さんにも興味を持ってもらうように行いたい。

以上、第１回交流会は終了。

　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　(本報告書作成者：長尾信一)